

埋蔵文化財試掘調査報告 VI

国道バイパス・県道建設予定地及び県営ほ場整備事業予定地内の調査

1993年3月

香川県教育委員会

例　　言

1. 本書は、香川県教育委員会が平成4年度国庫補助事業として実施した、国道バイパス等遺跡発掘調査の概要報告書である。
2. 平成4年度の国道バイパス等遺跡発掘調査の対象は、国道32号満濃バイパス（満濃町～仲南町）、国道11号高松東道路（三木町～津田町）建設予定地、県道高松志度線（高松市）道路改良事業予定地、および県営ほ場整備事業予定地内の三豊郡三野西部地区・三野東部地区、香川郡香南地区、大川郡大川地区・大内地区である。
3. 調査は、香川県教育委員会事務局文化行政課主任技師國木健司、北山健一郎が担当した。
4. 本書の執筆は調査の分担に応じて以下の分担で行い、全体編集は北山が担当した。
第2章(3)2、第3章、第4章(3)1、4、5 國木
第1章、第2章(1)、(2)、(3)1、第4章(1)、(2)、(3)2 北山
5. 本書の挿図の一部に建設省国土地理院発行の25,000分の1の地形図を使用した。
6. 調査の実施にあたっては、建設省香川工事事務所、香川県土木部道路建設課、高松土木事務所、香川県農林部土地改良課、三豊土地改良事務所、中部土地改良事務所、大川土地改良事務所、三野町教育委員会、満濃町教育委員会、仲南町教育委員会、香南町教育委員会、高松市教育委員会、三木町教育委員会、大川町教育委員会、大内町教育委員会、その他地元関係各位、および財香川県埋蔵文化財調査センターの協力を得た。

目 次

第1章 平成4年度国道バイパス等遺跡発掘調査実施に至る経緯	1
第2章 国道バイパス建設予定地の調査	2
(1) 調査に至る経緯と経過	2
(2) 調査の方法	3
(3) 調査の概要	4
1 満濃バイパス	4
2 高松東道路	9
第3章 県道建設予定地内の調査	13
(1) 調査に至る経緯と経過	13
(2) 調査の方法	13
(3) 調査の概要	13
(4)まとめ	15
第4章 県営ほ場整備事業予定地内の調査	21
(1) 調査に至る経緯と経過	21
(2) 調査の方法	21
(3) 調査の概要	23
1 三野西部地区	23
2 三野東部地区	27
3 香南地区	31
4 大川地区	37
5 大内地区	45

図 目 次

図 1 国道バイパス調査対象地位置図	3	図12 トレンチ配置図	24
溝瀬バイパス		図13 保護措置が必要な範囲	26
図 2 調査対象地と周辺の遺跡分布図	5	三野東部地区	
図 3 調査トレンチ配置図	6	図14 調査対象地と周辺の遺跡分布図	28
高松東道路（三木町井上地区）		図15 トレンチ配置図	29
高松東道路（三木町池戸地区）		香南地区	
図 4 井上地区トレンチ配置図	10	図16 調査対象地と周辺の遺跡分布図	32
図 5 調査対象地と周辺の遺跡分布図	11	図17 トレンチ配置・遺跡範囲図	33
県道高松志度線		図18 遺物実測図	34
図 6 調査対象地と周辺の遺跡分布図	14	大川地区	
図 7 調査トレンチ配置図(1)	16	図19 調査対象地と周辺の遺跡分布図	38
図 8 調査トレンチ配置図(2)	17	図20 トレンチ配置図	40
図 9 遺物実測図	18	図21 保護措置が必要な範囲	42
図10 県営ほ場整備調査対象地位置図	22	図22 遺物実測図	42
三野西部地区		大内地区	
図11 調査対象地と周辺の遺跡分布図	23	図23 調査対象地と周辺の遺跡分布図	46
		図24 トレンチ配置・遺跡範囲図	47
		図25 保護措置が必要な範囲	48

表 目 次

表 1 遺跡詳細分布調査の概要（各年度）	1
表 2 国道バイパス調査対象事業と調査の経過・概要	2
表 2 県営ほ場整備調査対象事業と調査の経過・概要	22

写真目次

溝濃バイパス	三野西部地区
写真1 重機稼働風景 (②トレンチ)7	写真18 ⑪トレンチ古瓦出土状況.....26
写真2 ②トレンチ発掘風景 (西より)	写真19 ⑬トレンチ掘削状況
写真3 ③トレンチ遺構検出状況 (西より)	
写真4 ⑥トレンチ遺構検出状況 (西より)	三野東部地区
.....8	
写真5 ⑥トレンチ溝状遺構検出状況	写真20 重機稼働状況.....30
写真6 ⑪トレンチテストピット掘削状況	写真21 ③トレンチ全景 (東より)
	写真22 ④トレンチ全景 (西より)
高松東道路 (三木町井上・池戸地区)	香南地区
写真7 戸敷地区②トレンチ掘削状況.....11	写真23 調査地遠景 (北より)35
写真8 柿谷地区⑫トレンチ掘削状況.....12	写真24 調査地近景 (南より)
写真9 池戸地区頂上平坦部トレンチ掘削状況	写真25 ①トレンチ発掘状況 (北より)
写真10 池戸地区南斜面部トレンチ掘削状況	写真26 ②トレンチ土層堆積状況.....36
	写真27 ③トレンチ発掘状況
県道高松志度線	写真28 ⑤トレンチ発掘状況 (南より)
写真11 ④トレンチ掘削状況.....18	大川地区
写真12 ⑥トレンチピット検出状況.....19	写真29 ②トレンチ掘削状況.....43
写真13 ⑭トレンチ豎穴住居検出状況	写真30 ③トレンチピット群検出状況
写真14 ⑮トレンチ豎穴住居検出状況	写真31 ④トレンチ豎穴住居検出状況
写真15 ⑯トレンチ掘削状況.....20	写真32 ⑩トレンチピット群検出状況.....44
写真16 ⑰トレンチ豎穴住居等検出状況	写真33 ⑪トレンチ溝検出状況
写真17 ⑱トレンチ掘削状況	写真34 ⑫トレンチ掘削状況
	大内地区
	写真35 ⑥トレンチピット検出状況.....48
	写真36 ⑥トレンチ掘削状況

第1章 平成4年度国道バイパス等遺跡発掘調査実施に至る経緯

香川県教育委員会は、国民共有の貴重な文化遺産である埋蔵文化財の適正な保護を図るために、昭和58年度以来、県下の大規模公共開発事業に対応するため、過去7回にわたり国庫補助事業として遺跡詳細分布調査を実施してきたが、その経過、概要は表1のとおりである。

しかしながら、昭和62年度以降の同調査は、分布・踏査よりも試掘調査にかたよりがちであつたため、文化庁の指導もあり、今年度より事業内容を試掘調査を中心とした遺跡発掘調査事業に切り替え、内容はこれまでの調査を踏襲することとした。

平成4年度は、平成元年度以来調査を継続している、緊急を要する高松東道路（三木町～津田町）建設予定地、高松市東部の慢性的な渋滞の緩和を目的とする県道高松志度線建設予定地、および県営は場整備事業予定地（三野西部・三野東部・香南・大川・大内）を調査対象とした。

実施年度	調査対象地	調査方法	調査の目的	報告書の名称
58年度	中瀬4市9町	分布調査	遺跡台帳の整備	昭和58年度埋蔵文化財詳細分布調査概報
61年度	A 国道32号被南バイパス B 国道11号高松東バイパス C 国道11号板出・丸龜バイパス D 国道319号善通寺バイパス E 四国横断自動車道（高松～善通寺間）の各建設予定地	分布調査（A～E） 試掘調査（A・B・D）	国道バイパス、四国横断自動車道建設予定地内の埋蔵文化財有無の確認	国道バイパス及び四国横断自動車道建設予定地内埋蔵文化財詳細分布・試掘調査概報
62年度	国道11号高松東バイパス（高松市林町一六条町）建設予定地内	試掘調査	高松東バイパス建設予定地内の遺跡範囲の確定	一般国道11号高松東バイパス建設予定地内埋蔵文化財試掘調査報告
63年度	A 国道11号高松東バイパス（高松市東山崎町・前田東町）建設予定地内 B 奥道高松長尾大内線（高松市小村町）建設予定地内 C 県営は場整備事業予定地内（大川・鴨部・三野東部・香南・中・高瀬）	分布調査 試掘調査	A 高松東バイパス建設予定地内の遺跡範囲の確定 B・C 遺跡台帳の整備	一般国道11号高松東バイパス建設及び県営は場整備に伴う埋蔵文化財試掘調査報告II
元年度	A 国道11号高松東道路（高松市前田西町の一帯）建設予定地内 B 国道32号構造バイパス（構造町西永福家地区）建設予定地内 C 県営は場整備事業予定地内（高瀬・三野東部・香南・鴨部・大川）	分布調査 試掘調査	A 高松東道路建設予定地内の遺跡範囲の確定 B・C 開発予定地内の埋蔵文化財有無等の確認及び遺跡台帳の整備	埋蔵文化財試掘調査報告III 国道バイパス建設予定地及び県営は場整備事業予定地内の調査
2年度	A 国道11号高松東道路（高松市前田西町の一帯）建設予定地内 B 国道11号高松東道路（三木町～津田町）建設予定地内 C 国道32号構造バイパス（満濃町・吉野下・五条地区）建設予定地内 D 奥道山崎構造線建設予定地内 E 県営は場整備事業予定地内（高瀬・三野西高・大川・大内）	分布調査 試掘調査	A 高松東道路建設予定地内の遺跡範囲の確定 B～E 開発予定地内の埋蔵文化財有無等の確認及び遺跡台帳の整備	埋蔵文化財試掘調査報告IV 国道バイパス・県道建設予定地及び県営は場整備事業予定地内の調査
3年度	A 国道11号線高松東道路（三木町～津田町）建設予定地内 B 案内高松長尾大内線（三木町～津田町）建設予定地内 C 県営は場整備事業予定地内（高瀬・香南・田中・東田中・大川）	分布調査 試掘調査	A 高松東道路建設予定地内の遺跡範囲の確定 B・C 開発予定地内の埋蔵文化財有無等の確認及び遺跡台帳の整備	埋蔵文化財試掘調査報告V 国道バイパス・県道建設予定地及び県営は場整備事業予定地内の調査

表1 遺跡詳細分布調査の概要（各年度）

第2章 国道バイパス建設予定地の調査

(1) 調査に至る経緯と経過

国道バイパス建設に伴う埋蔵文化財の保護については、これまで香川県教育委員会と建設省香川工事事務所との間で適宜協議を実施し、その適切な保護に努めてきた。

東讃地方の主要幹線道路としてその整備が急がれている高松東道路（木田郡三木町～大川郡津田町）については、昭和63年11月1日付建四香第1461号で埋蔵文化財の有無についての照会文書が提出されている。これを受けて、香川県教育委員会では、平成元年度より現地踏査等を行い、試掘調査が必要な場所の抽出を行い、用地交渉の妥結した場所について試掘調査を随時実施してきた。平成4年度は、用地交渉の妥結した木田郡三木町池戸地区と同町戸敷・柿谷地区の2箇所、延長約420mを対象に試掘調査を実施した。

また、中讃地方南部の主要幹線道路である国道32号線の慢性的な渋滞を緩和する目的で整備が進められている満濃バイパス（満濃町羽間～仲南町賀田）については、昭和63年11月1日付建四香第1461号で照会文書が提出されている。香川県教育委員会では、平成元年度より満濃町四条福家地区・羽間地区・吉野下地区・五条地区の用地交渉の妥結した場所において試掘調査を実施し、そのうち、吉野下地区において古墳時代～古代にかけての集落跡である吉野下・秀石遺跡（8,500m²）、及び五条地区において古墳時代後期ごろのものと思われる古墳の墳丘の一部を確認している。平成4年度は、満濃町五条地区～仲南町賀田地区的延長約880mを対象に調査を実施した。

調査地区名	試掘調査		確認した遺跡の概要				
	期間	面積	遺跡名	種別	時代	保存措置等	
満濃バイパス(満濃町～仲南町)	6月15日～6月18日	340m ²	賀田岡下遺跡	集落	古代	8,000m ² 記録保存	
高松東道路(三木町井上地区)	8月3日～8月7日	478m ²	—	—	—	—	
高松東道路(三木町池戸地区)	11月17日～11月18日	304m ²	—	—	—	—	

表2 国道バイパス調査対象事業と調査の経過・概要

(2) 調査の方法

事前に道路建設予定地内の現地踏査を実施し、遺物の表面採集、地形観察等により、試掘調査の必要の有無の確認および試掘場所の選定を行い、あわせて水路や公・私道の現状や重機の進入経路等を確認した。

試掘調査はトレンチ調査で、以下の方法を原則とした。

試掘トレンチ調査対象の範囲および地形、地割等を勘査して設定した。道路建設予定地内の試掘調査の場合、建設用地の両側近くにそれぞれトレンチを設定するのが有効であるが、今年度は、分布調査の結果等により、また、作付の関係から建設予定地内の境界近くに千鳥に、地割にあわせてトレンチを設定した。トレンチの規模は幅約2mである。

トレンチの掘削は重機により各土層毎に掘削し、遺構等の発見される地面で一時停止して、その後は人力により掘削断面の清掃を行った。遺構等の検出後は土層柱状図・遺構配置略図を作成し、適宜写真撮影を行った。記録作成後、必要に応じてさらに深く掘削して、土層の堆積状況を観察・記録し、調査終了後旧状に埋め戻した。

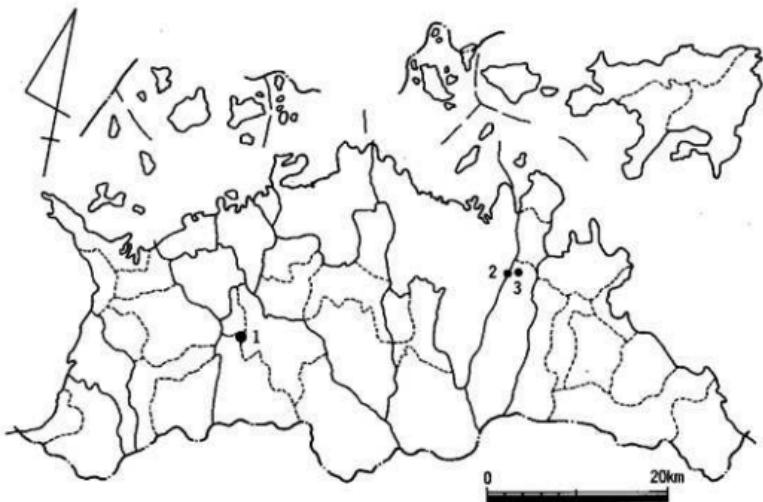


図1 国道バイパス調査対象地位置図

(3) 調査の概要

1 満濃バイパス（満濃町五条～仲南町賀田）

位置と環境

調査対象地は、金倉川の西側すぐのJR土讃本線三界山踏切より国道32号線と国道377号線の交差点までの延長約880mである。

調査対象地は、南から北に向かって流れる谷筋が平野部へ広がり始める部分にあたり、南東から北西に向かって緩やかに傾斜しており、標高は概ね79m前後を測る。

付近の平野部には、奈良時代の瓦の出土で知られる弘安寺跡（満濃町四条本村）が所在するのみでそれ以外には現在まで、確認されている遺跡は所在しない。一方、調査対象地東側に隣接する三界山山塊には、古墳時代後期の群集墳である三界山古墳群が所在し、さらに北東方向に土器川を渡ると、ガラス製モザイク玉が出土した安造田東3号墳等を含む安造田古墳群が中津山山塊に所在する。

調査結果

トレンチは、地形等を勘案し、用地買収状況や作付状況等から平野部に11箇所ほど設定した。基本的な層序は、耕作土下に黄色粘土の地山が現れるが、③トレンチにおいては、耕作土下に厚さ10cmの灰色砂質土の遺物包含層が確認された。調査の結果、①トレンチ東側の水田から⑩トレンチにかけて微高地が広がることが確認されたが、⑦トレンチより東側の部分については、後世の地下げを受けているらしく、残存状況の悪い近代以降の土坑が検出されたのみであった。

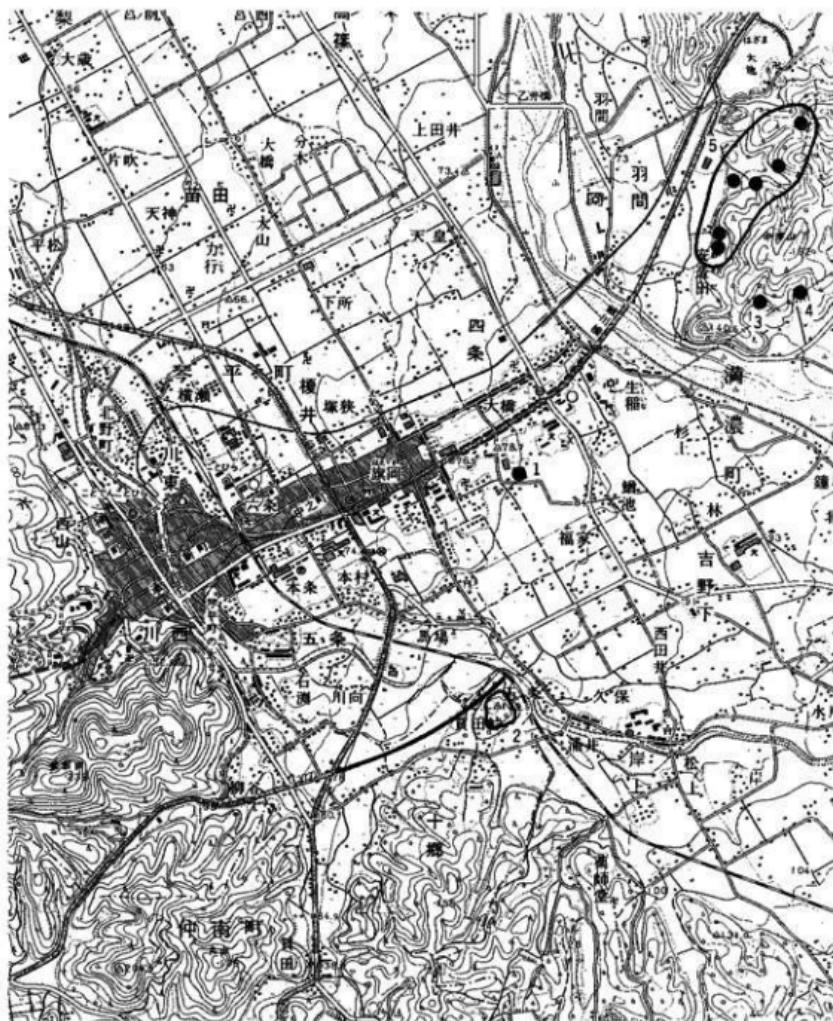
検出された遺構としては、溝・土坑があげられる。溝は、②・⑤・⑥トレンチで検出され、特に⑥トレンチで検出された幅1.4m、深さ0.2mのものには、古代～中世にかけての須恵器片・土師器片・黒色土器片が出土している。また、土坑は、②・③・⑥トレンチで検出され、いずれも長さ1m以上、幅0.8m以上で方形を呈する。

なお、⑪トレンチ付近は重機の進入が不可能であったため、人力によるテストピットを4箇所設定し、掘削したが、三界山山麓を改変した水田域であることが確認された。

まとめ

トレンチ調査及び地形観察の結果、①トレンチ東側から⑩トレンチにかけて、微高地が広がることがわかり、③トレンチの包含層から古代～中世頃のものと思われる遺物が出土していることから、同時期もしくはそれ以前の遺構・遺物が所在するものと思われる。また、⑧トレンチから⑩トレンチにかけては、近代以降の土坑の遺存状況からみてかなりの地下げを受けているものと思われ、これ以前の遺構・遺物は所在しないものと思われる。

以上のことから、図3に示す範囲（約8,000m²）において文化財保護法に基づく適切な保護措置を講ずる必要がある。



- 1 弘安寺跡（奈良）
- 2 三界山古墳群
- 3 中世墳墓
- 4 佐岡寺跡（平安）
- 5 安造田古墳群

図2 調査対象地と周辺の遺跡分布図

図3 トレンチ配置・道路地図

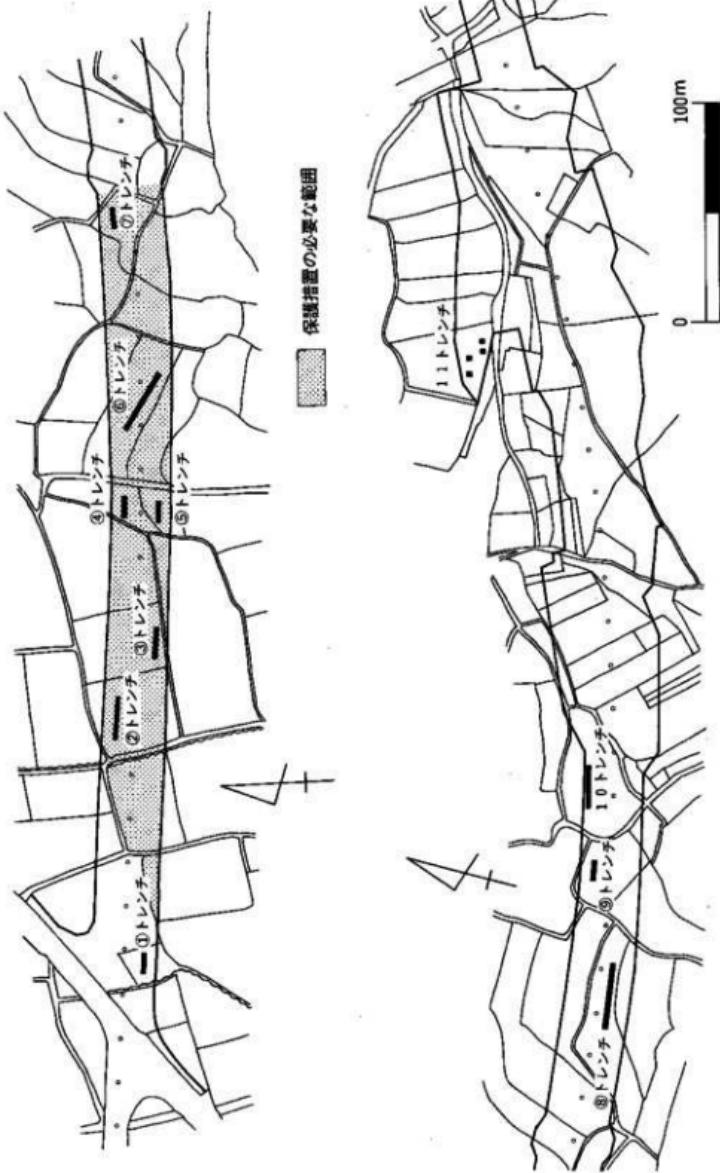


写真1 重機稼働風景
(②トレンチ)



写真2 ②トレンチ発掘風景
(西より)



写真3 ③トレンチ造構
検出状況（西より）

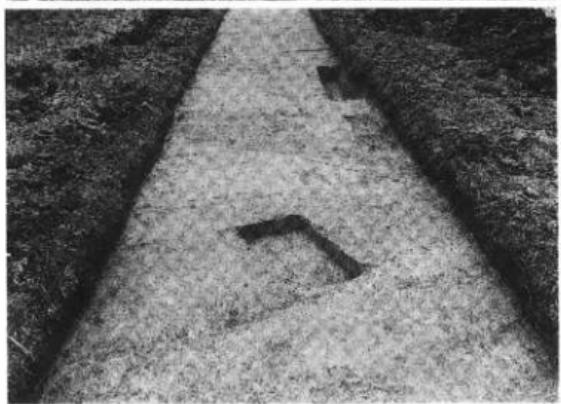




写真4 ⑥トレンチ遺構
検出状況（西より）



写真5 ⑥トレンチ構造遺構
検出状況

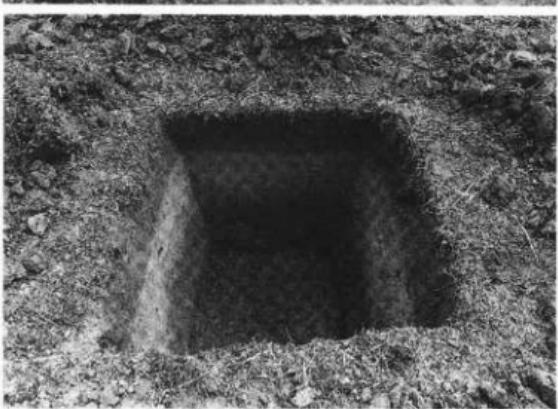


写真6 ⑪トレンチテストピット
ト掘削状況

2 高松東道路（自動車専用道路三木町井上地区）

位置と環境

調査対象地は三木町内の自動車専用道路建設予定地のうち、平成元年度の分布調査により試掘調査が必要であるとされた戸敷地区、柿谷地区の2ヵ所である。両地区ともに延長約200mが試掘調査対象地である。いずれも三木町北部の立石山（標高272m）から南に派生する尾根筋に挟まれた谷筋部分に相当する。

当該地周辺には古墳時代以前の集落遺跡は知られていないが、多種多様な墳墓、古墳の存在が注目される。深谷地区の丘陵上にはかつて箱式石棺が所在したと言われ、「三木町史」では弥生時代にさかのぼる墳墓群である可能性も指摘されている。南西約1.5kmの男井間池西方の丘陵上には弥生時代終末期から古墳時代期末までの墳墓・古墳群である権八原古墳群が所在する。後期古墳は風呂谷古墳、深谷古墳、椿社古墳、五分一池古墳群等が知られ、1基～数基と分散した分布を示す。当核地の東方約1.5kmの谷部には6世紀末から7世紀にかけての須恵器窯である小谷窯跡が知られる。また、南方の平野部には奈良時代の始覚寺跡、鎌倉時代の香蓮寺跡等が知られている。

以上のような周辺の遺跡分布からみて、当該地には集落遺跡とともに生産遺跡が存在する可能性があった地区である。

調査結果

（戸敷地区） 2本の尾根筋に挟まれた谷部である。東西両側の尾根筋の斜面部に3ヵ所、谷部に4ヵ所のトレンチを設定した。大半のトレンチで厚い砂層堆積が認められ、遺構は検出されなかった。また、砂層中から古瓦片1点、土師器細片数点出土したが、いずれもローリングが著しく流れ込みによるものと考えられる。

（柿谷地区） 北から南に派生する尾根に挟まれた幅広の谷筋に相当する部分で13本のトレンチを設定した。大半のトレンチで厚い砂層堆積が認められ、局的に散漫な遺物包含層等を検出した。2本の流路とその間の狭い微高地部分とに古環境が復元される。

まとめ

調査結果からみて、当該地区については事前の保護措置は不要と判断された。

3 高松東道路（一般道路三木町池戸地区）

位置と環境

対象地は三木町西端に位置する工事予定区間で、高松市内区間と県道小藪前田東線との取り付き部分である。現在香川医科大学が所在する独立丘陵から高松市前田東町方面へ突き出た比較的急峻な尾根筋に相当する。

現在の行政区画は三木町に属するが、視界は西方の高松市方向に広がるために、前田東町との連の地域を構成する地区とみなすことができる。

前面に広がる低丘陵斜面部及び平野部には、縄文時代から中世に至る大規模な集落、墳墓、生

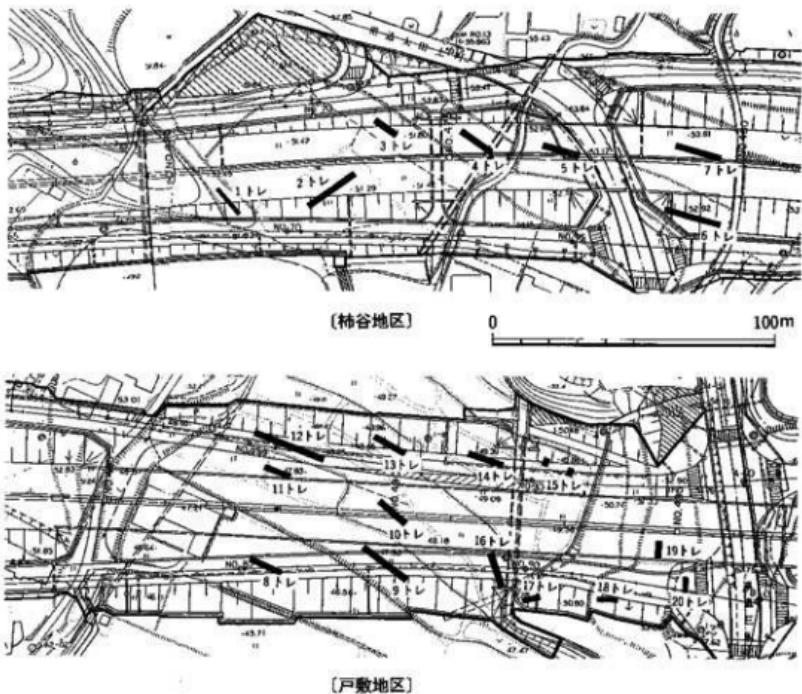


図4 井上地区トレンチ配置図

産遺跡である前山東中村遺跡が所在する。

また、前山東中村遺跡から丘陵を逆上った東畠地区には潮溝塚をはじめとする多数の後期古墳が所在している。

従って、今回の調査対象地には地形的に墳墓、古墳等の存在が予測された地区である。

調査結果

尾根頂上平坦部に3本、斜面部に9本のトレンチを設定した。頂上平坦部及び斜面の大半のトレンチからは遺構・遺物ともに全く検出されず、丘陵縁辺の裾付近に設立したトレンチからわずかに中世遺物等の出土をみたに留まる。

まとめ

調査結果からみて、当該地区について事前の保護措置は不要と判断された。



- | | |
|------------------|-----------------|
| 1 棚社古墳（横穴式石室） | 7 小谷窯跡（6末～7世紀） |
| 2 深谷古墳 | 8 横八原古墳群 |
| 3 深谷墳墓群（箱式石棺等） | 9 前田東中村遺跡 |
| 4 五分一池古墳群（横穴式石室） | 10 潮満塚古墳（横穴式石室） |
| 5 香蓮寺跡（銀倉） | 11 平尾古墳群（後期） |
| 6 始覺寺跡（奈良） | 12 山本古墳（横穴式石室） |

図5 調査対象地と周辺の遺跡分布図



写真7 戸教地区2トレ
掘削状況



写真8 柿谷地区にトレ
掘削状況



写真9 池戸地区頂上平坦部
トレンチ掘削状況



写真10 池戸地区南斜面部
トレンチ掘削状況

第3章 県道建設予定地内の調査

(1) 調査に至る経緯

一般国道11号高松以東区間は徳島と県都高松を結ぶ大動脈であるが、かねてより市内及び周辺地区での交通渋滞が憂慮されていた。この交通渋滞緩和のため現在山間部を縫うように走る県道高松志度線のバイパス建設工事が計画された。牟礼町間では既に現道拡幅の形で2車線化が一部すすめられているが、高松市内区間（県道塩江屋島西線以東区間）については、今年度急速に建設計画が進展した。

香川県教育委員会は平成4年7月に現地踏査を行い、人規模な採土、地下げ部分を除く延長約1.8kmについては事前に試掘調査を実施する必要があると判断した。

その後、試掘調査の方法、時期等について慎重に協議を重ねたが、大半の部分が今年度秋に用地買収の集団調印が行われることから、平成5年2月に試掘調査を行った。

(2) 調査の方法

調査対象は県道塩江屋島西線以東の延長約1,300m、幅約15~29m、面積約21,000m²の範囲である。試掘調査では事前の分布調査で確認した地形・地割および水路や公・私道の現状等を勘案してトレンチを設定した。ここでは上地一区画単位に幅約2mのトレンチを原則として千鳥に配して、合計32箇所設定した。調査トレンチの総延長は約432mで、試掘調査における実掘面積は約858m²。これは調査対象面積の約4.1%に当る。

調査トレンチは重機により各土層毎に掘削し、その後人力により精査し、遺構等の検出を行った。遺構等の検出後はそれらの配置略図、土層柱状図を作成するとともに、写真撮影を行った。また、一部の遺構等については、その内容・遺存状態・時代等を把握するため掘削した。これらの作業終了後、さらに掘下げ下層遺構等の有無の確認を行った。すべての調査終了後、調査トレンチは旧状に埋戻した。

(3) 調査の概要

位置と環境

調査対象地は高松東部の牟礼町境を画する山間部から谷筋を抜け新川流域の低地部に至る地域で、東半部は丘陵、山間部、西半部は扇状地及び低地部に相当する。

丘陵部には弥生時代後期初頭の標式遺跡として著名な大空（スペリ山）遺跡や南谷遺跡等が隣接して所在する。

丘陵縁辺部には南谷古墳、長尾古墳群（現存3基）等の後期古墳が所在する。



図6 調査対象地と周辺の遺跡分布図

また、低地部分南方の東方山塊から西へ派生する低丘陵上には複室構造をもつ横穴式石室をもつてていたとされる小山古墳等の所在が知られている。

調査結果

山間部に設定した5本のトレンチから遺構・遺物とともに検出されなかった。厚い砂層堆積が認められたことからすれば、旧状は谷筋に相当するものと考えられた。大空遺跡の範囲、性格及び当時の古環境を知る上で興味深いデータである。

丘陵縁辺部及び低地部は用地買収が部分的に未了であったため、調査区を3地区に細分して試掘を行った。以下、I区（丘陵縁辺地区6～17トレ）、II区（長尾池東方地区18～22トレ）、III区（錨池西方地区23～32地区）と呼称する。

I区は南谷遺跡の北縁辺部に相当する地域である。唐戸池南方の水田に設定した6トレからは厚い砂層堆積部と安定した微高地部を検出しており、小さな谷筋と丘陵部とに古環境が復元される。微高地部からはピット群等を検出している。

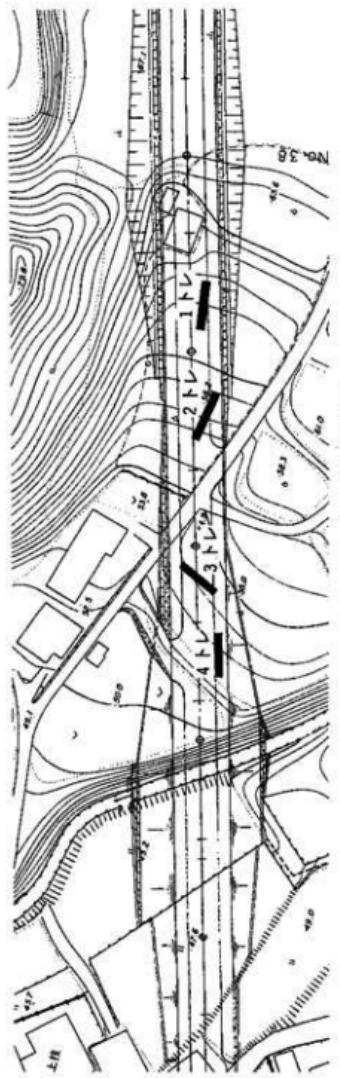
丘陵縁辺地区のうち唐戸池の西方の部分はさらに丘陵斜面部(7～12トレ)、扇状地部分(13～17トレ)に細分される。前者は現在棚田状に開墾され、地形改変も著しいが厚い砂層中に弥生土器、土師器、須恵器等が包含され、9、10トレなど部分的に遺構を検出したトレンチもある。後者ではほとんど全城で竪穴式住居等の遺構・遺物包含層が検出された。図の1・2が9トレ、3・4が10トレ、7～11が17トレの各々包含層出土遺物で、弥生時代中期後葉から後期を中心とするものである。5は15トレから出土した12世紀前半頃のこね鉢である。

II区は18トレでピット1を検出した他は遺構は希薄であったが、21トレでは古代末～中世の水田跡と推定される土壤層を検出した。19～20トレは旧流路であったと推定されるが、須恵器(12)を中心とする遺物の包含層が認められる。

III区は現在なだらかな緩傾斜地であるが、微高地上に展開する集落跡を検出した23・26トレと旧流路を検出した25・28～32トレとに細分される。小微高地と小流路とが複雑に交錯する古環境に復元される。28トレからは流路最下層の黒色土中から縄文土器（晩期後葉、9図13）が出土している。31トレ以西は削平も著しく遺物量もかなり希薄となる。

(4) まとめ

調査の結果、山間部地区については今後の保護措置は不要と判断されたが、丘陵縁辺部及び低地部については6トレ～30トレ間の用地買収区間について、今後の保護措置が必要であると判断された。



[山間部地区]

100m

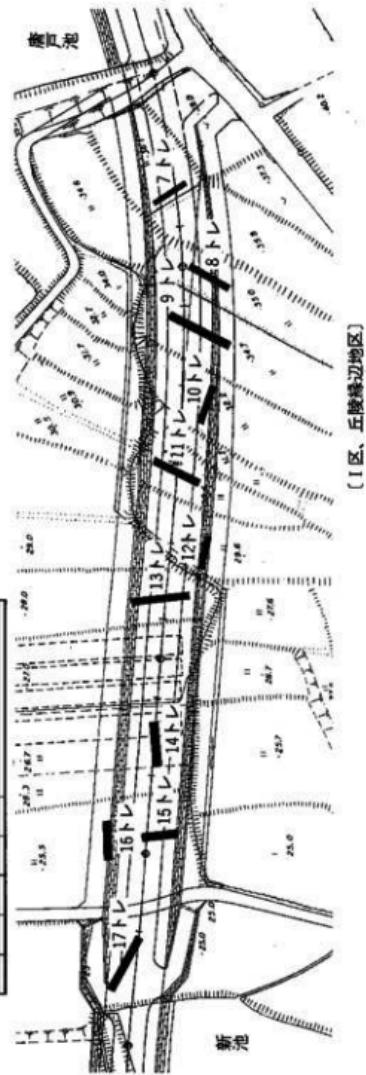
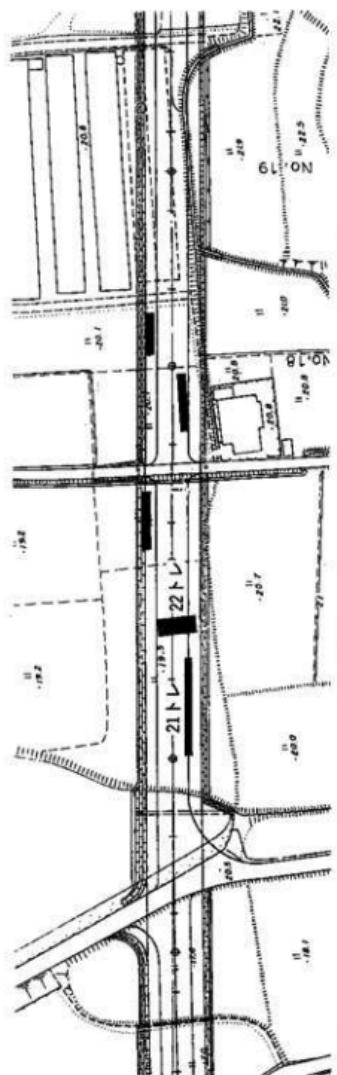
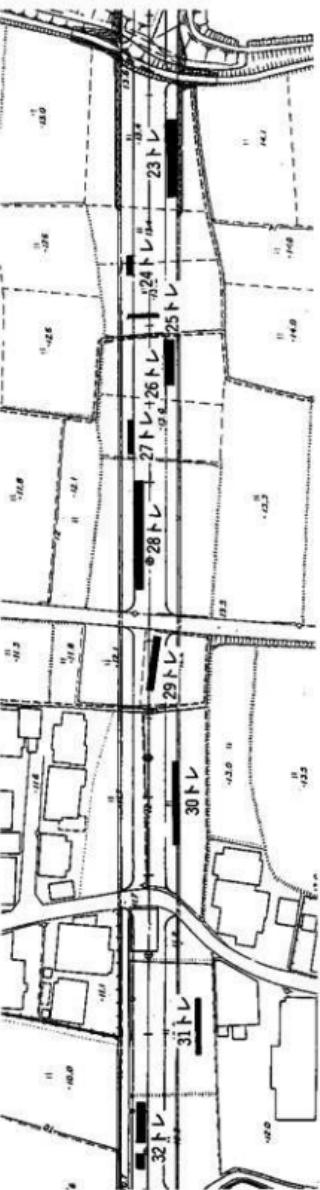


図7 レンチ配置図(1)



[II、長尾池東方地区]



〔錨池西方地區〕

図8 トレンチ配管(2)

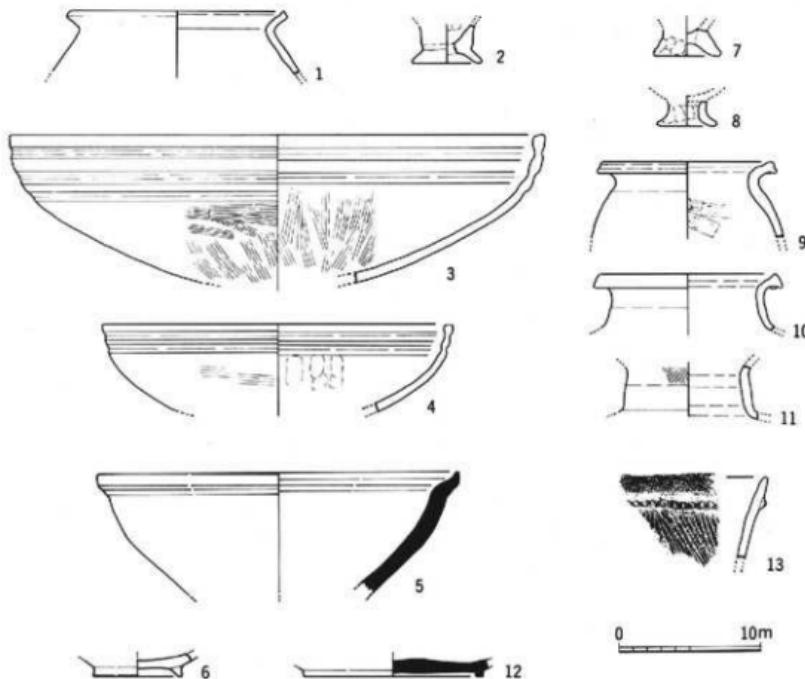


図9 遺物実測図



写真11 4トレ掘削状況

写真12 6トレビット検出状況



写真13 14トレ豎穴住居
検出状況

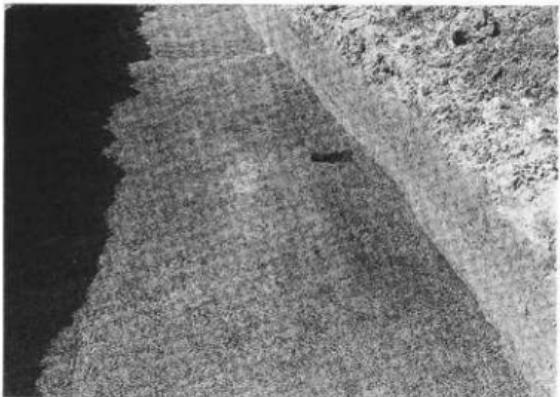


写真14 15トレ豎穴住居
検出状況

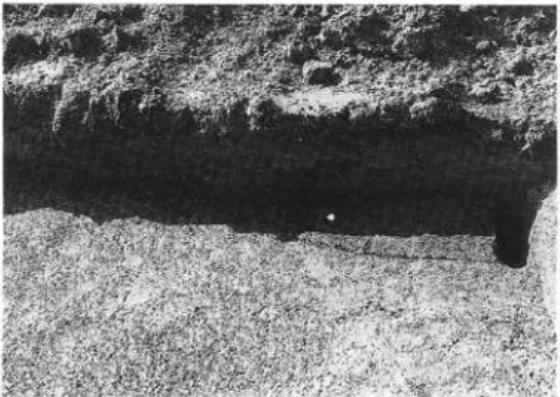




写真15 21トレ掘削状況



写真16 23トレ竪穴住居等
検出状況



写真17 28トレ掘削状況

第4章 県営ほ場整備予定地内の調査

(1) 調査に至る経緯と経過

昭和58年度に中讃地域を中心とする4市9町を対象とした国庫補助事業「遺跡詳細分布調査」に香川県内の遺跡数は飛躍的に増加した。また、四国横断自動車道や高松東道路建設に伴う発掘調査の結果等を勘案すれば、平野部に多くの未確認の遺跡が所在することは想像に難くない。

そこで、香川県教育委員会は近年の急激な開発事業に対処し、埋蔵文化財の適正な保護を進めるためには、平野部の遺跡の所在を把握することが急務であると判断し、低丘陵・山麓部から平野部にかけて広範囲に事業を実施する県営ほ場整備事業を、昭和63年度から「遺跡詳細分布調査」の対象に加え、事業予定地内の遺跡の所在の有無およびその範囲、時期・時代等について確認し、遺跡台帳の整備を図るとともに、事業実施にあたって埋蔵文化財の適切な保護を図るために資料を得ることを目的として調査に着手した。

昭和63年度は県営ほ場整備事業対象10地区のうち、大川・鴨部・三野東部・豊中・高瀬の5地区を調査対象とし、豊中地区を除く4地区で試掘調査を実施した。その結果、周知の1遺跡と新発見の5遺跡について具体的な内容を把握し、それらの保存についても成果をあげた。

平成元年度は高瀬・三野東部・香南・田中・鴨部・大川・大内の7地区を調査対象とし、田中・大内を除く5地区で試掘調査を実施し、4遺跡の所在、内容等を確認した。

平成2年度は高瀬・三野西部・大川・大内の4地区を調査対象とし、すべての地区で試掘調査を実施し、三野西部地区で周知の1遺跡、他地区で新たに4遺跡の所在、内容等を確認した。

平成3年度は高瀬・香南・田中・東田中・大川の5地区を調査対象とし、すべての地区で試掘調査を実施し、高瀬・香南・大川の各地区において周知の3遺跡の所在、内容等を確認した。

平成4年度は三野西部・三野東部・香南・東田中・大川・大内の6地区を調査対象とし、東田中地区を除く5地区で試掘調査を実施したが、調査の場所、経過、概要は図10、表3のとおりである。

(2) 調査の方法

分布調査は各土地改良事務所との協議の際に入手した1,000分の1の図面をもとに、遺物採集、地形観察、聞き取り等を行い、遺跡の所在が予想される範囲の確認を行った。遺跡の所在が予想される範囲については地下遺構等の所在の有無および遺構面の深さ等を確認するため、事前に試掘調査を実施する必要があるため、この時にあわせて試掘調査対象地区をある程度選定した。また、試掘調査は重機による掘削を基本とするため、重機の進入・移動経路および水路や公・私道の現状等について確認した。

試掘調査対象地の選定は、分布調査結果や試掘調査実施予定期における作付、さらにはは場整備事業の各ほ場の設計高等について検討して行ったが、結果的に切土設計となるほ地が試掘調査対象地となった。

試掘調査はトレンチ調査で、トレンチは地割・地形にあわせて設定した。試掘トレンチの規模は幅約2mを基本としたが、必要に応じてその規模を変更した。

試掘トレンチの掘削は各土層毎に重機で行い、遺構が発見される深さで一時停止し、その後は人力により掘削断面を精査し、遺構等の検出に努めた。重機の掘削等による堆土については、耕作土とその他の土を分けて仮置きした。試掘トレンチの掘削の深さは、ほ場整備事業実施後の耕作に留意して、ほ場整備事業の設計の切土高までとした。遺構検出後は土層柱状図、遺構配置略図等の作成、写真撮影を行った。すべての調査終了後、試掘調査トレンチは旧状に埋め戻した。

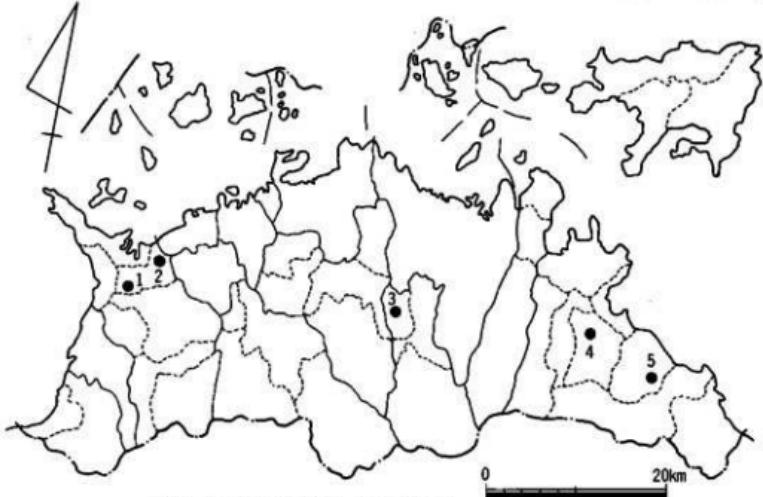


図10 県営ほ場整備調査対象位置図

事業区名	分布調査		試掘調査		確認した遺跡の概要			
	期間	面積	期間	面積	遺跡名	種別	時代	保存措置等
三野西部	—	—	5月27日～6月1日	120m ²	宗吉遺跡	散布地	古代～近世	協議中
三野東部	7月17日	20ha	2月1日～2月3日	187.5m ²	—	—	—	—
香南	1月11日	3ha	1月13日・1月18日	170m ²	音谷池古窯跡	窯跡	古代	現状保存
大川	10月5日	7.3ha	11月9日～11月12日	896.8m ²	千町遺跡	集落跡	古墳～古代	現状保存
大内	6月6日	13ha	6月22日～6月26日	140m ²	仲善寺遺跡	集落跡	弥生～中世	現状保存

表3 県営ほ場整備調査対象事業と調査の経過・概要

(3) 調査の概要

1 三野西部地区

立地と環境

高瀬川下流域の低地周辺には標高200m前後の独立丘陵が林立するが、そのうち山条山裾には古墳、窯跡等特徴的な遺跡が所在している。北東山麓の皿池西岸に所在する宗吉窯跡群は平成2年度に県教育委員会が2次にわたる試掘調査、平成3年度に三野町教育委員会が本調査を実施し、7基の瓦窯跡の存在が確認された。これらは藤原宮所用瓦を生産した官窯の可能性が高いものと



図11 調査対象地と周辺の遺跡分布図

考えられている。

山糸山南西山麓には古墳時代後期の須恵器窯跡である瓦谷窯跡が所在し、当該地周辺が窯業生産の諸条件を備え古くから生産活動を行っていたことが知られる。また、南麓及び龍神山東麓には東光寺古墳、龍神古墳等の所在が知られている。

調査結果

3次にわたる発掘調査により皿池西岸には7基の瓦窯跡が所在していることが明らかになった。これらは県営圃場関連の農道建設に伴う発掘調査であったが、瓦窯跡群の学術的価値が極めて高いことから、再度慎重な保存協議が必要となった。今回の試掘調査は今後の保存協議に必要な周辺部の埋蔵文化財包蔵状況を確認するために行ったものである。

試掘調査は皿池西岸の水田部、窯跡群西方丘陵部、皿池南岸水田部に計15ヵ所のトレンチを設定して行った。以下、各トレンチごとの概要を記す。

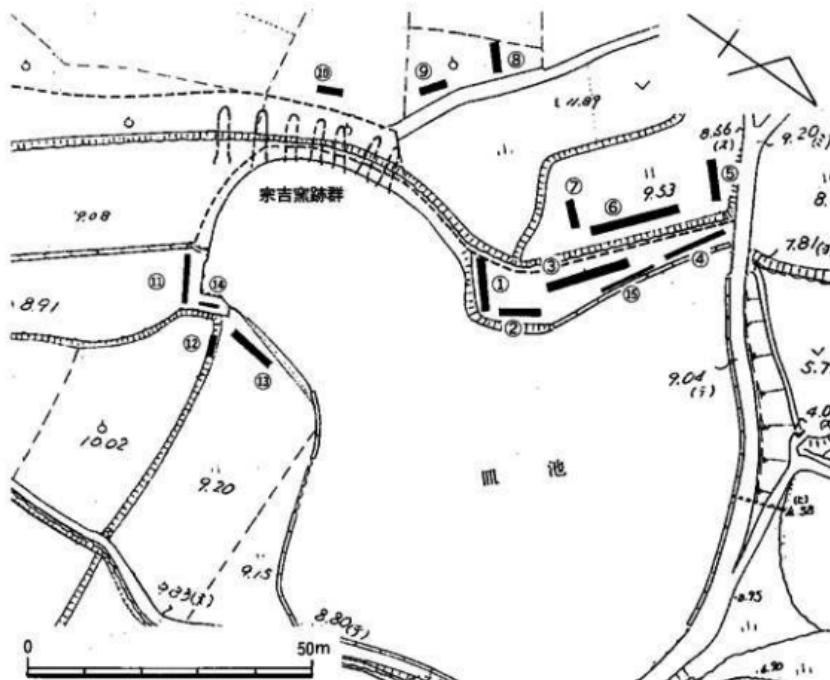


図12 トレンチ配置図

トレンチ	基 本 層 序	遺 構	遺 物
1	床土下7cmの中近世遺物包含層	方形ピット2	中世上師器、近代染付
2	〃 10cm 〃	方形ピット4	〃
3	〃 7cm 〃	方形ピット4	〃
4	〃 20cm 〃	方形ピット5	〃
5	床土直下地山(バイラン土)	な し	な し
6	〃 (〃)	な し	な し
7	〃 (〃)	な し	な し
8	耕作土下15~30cmの砂質土	な し	な し
9	耕作土下35cmの砂質土	な し	な し
10	耕作土15cmの砂質土	な し	土師器細片
11	耕作土下に10cmの砂質土 以下20~30cmの古瓦包含層 同層中に粘土、炭化物包含	な し	古瓦片3点 陶器片1点
12	耕作土下12~23cmの古瓦包含層 以下暗灰色、黄茶色砂質土堆積	な し	古瓦片4点
13	耕作土下10cm以下の古瓦を含む 灰色粘土。東端付近は同層を欠く。	な し	な し
14	耕作土下20cmの砂質土。 以下20cm以上の灰色粘土。	な し	な し
15	1~4トレンチと同様	方形ピット2	な し

まとめ

1~4、15トレンチで検出した方形ピット群(1辺70~80cm)は床土上面を遺構面とし、埋土中から近代染付片が出土していることから明治期以降のものと推定されるが、性格については不明である。11~14トレンチでは近世以降の整地明に形成されたと思われる遺物包含層を検出したが、同層中には古瓦等も等まれる。

以上のことから、別添図3に示した範囲については適切な埋蔵文化財の保護措置が必要と判断された。

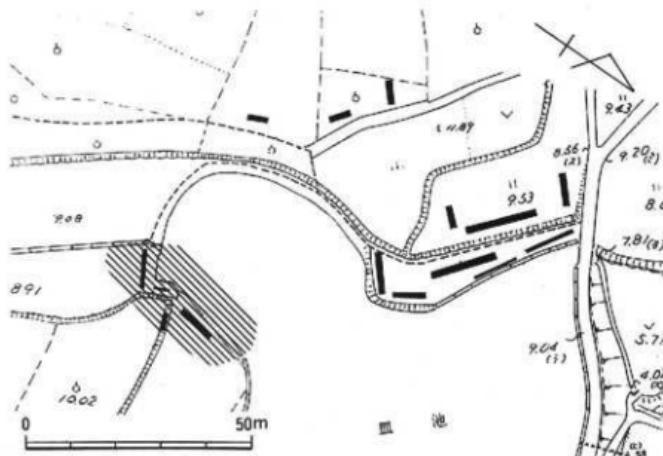


図13 保護措置が必要な範囲

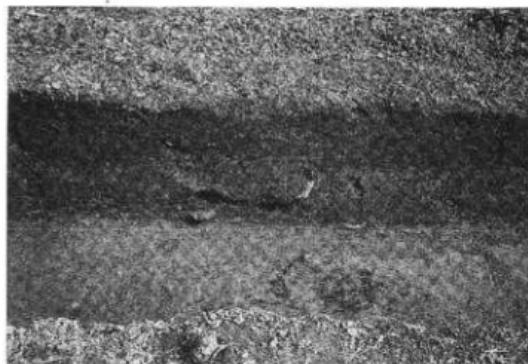


写真18 11トレ古瓦出土状況

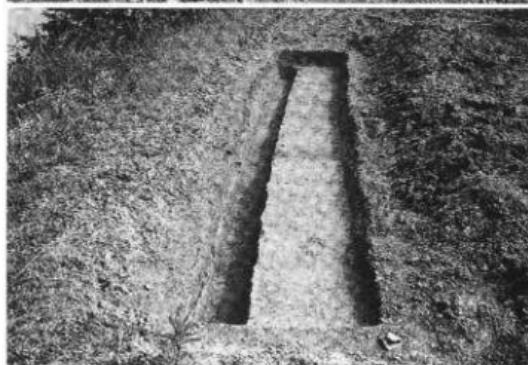


写真19 13トレ掘削状況

2 三野東部地区

立地と環境

調査対象地は四国塗場第70番札所弥谷寺で知られる弥谷山の南麓裾の傾斜地で、高瀬川の沖積等により形成された氾濫平野の北部にあたり、標高は約5m～20mを測る。

調査対象地周辺の遺跡分布は、西方の尾根斜面に昭和63年度に試掘調査を実施し確認した、中・近世の塚と考えられる国広塚が所在する。また峠池の築かれた谷を界して北西約750mの貴峰山の頂上には中世山城の大見城跡が所在する。また、さらにその北方の谷間に箱式石棺を主体とする新開古墳が単独で所在する。北方の弥谷山頂上付近には平形銅劍出土推定地と県指定史跡である弥谷寺信仰遺跡がある。東方の善通寺市と三野町を境とする鳥坂峠の周辺には数基の箱式石棺墓の所在が知られるが現存するものはわずかである。峠の北方、弥谷山の東麓裾傾斜地には弥生時代中～後期の集落跡である西碑殿遺跡や月信遺跡が所在する。また、南東方向にそびえる火上山西麓には古墳時代後期末ごろの須恵器窯跡である三野窯跡群が散在する。

加えて、調査対象地には西福寺という寺院が存在していたと「三野町史」に記されており、調査対象地及びその周辺には「大門」・「寺地」・「大鼠敷」といった地名が残っている。

調査結果

トレンチは、全部で6箇所に設定し、幅は概ね1.5mである。このうち、①・②トレンチでは、現地表下約60cmでの褐色の砂質土が観察され、基盤と思われる土層は確認できなかった。

③～⑥トレンチにおいては、現地表下約60cmで地山と思われる粘土層を確認した。遺構を検出したのは、このうち③トレンチだけであり、幅2.5m、深さ0.5mの等高線に直交するように流れる溝1条を検出した。埋土中からは、近世以降の土師器が出土している。

遺物はこのほか①・②トレンチの褐色の砂質土から近世以降の土師器や近代以降の土管の破片等が出土したが、寺院跡の所在を立証するような遺物は出土しなかった。

まとめ

調査の結果、弥谷山山麓から流れてきたと思われる堆積層が調査対象地北部に存在することが確認できたが、その下層に顕著な遺構はなく、また、遺物も近世以降のものしか出土せず、したがって、試掘調査対象地には地下遺構等の所在する可能性はないものと判断される。

よって、調査対象地においては、文化保護法に基づく事前の保護措置は不要であると判断される。



- | | |
|--------------|------------------|
| 1 国弘
大貝城跡 | 5 弥谷寺信仰遺跡（県指定史跡） |
| 2 新闘古墳 | 6 深尾東方古墳 |
| 3 銅刻出土推定地 | 7 東山西南古墳 |
| 4 | 8 三野宗跡群 |

図14 調査対象地と周辺の遺跡分布図

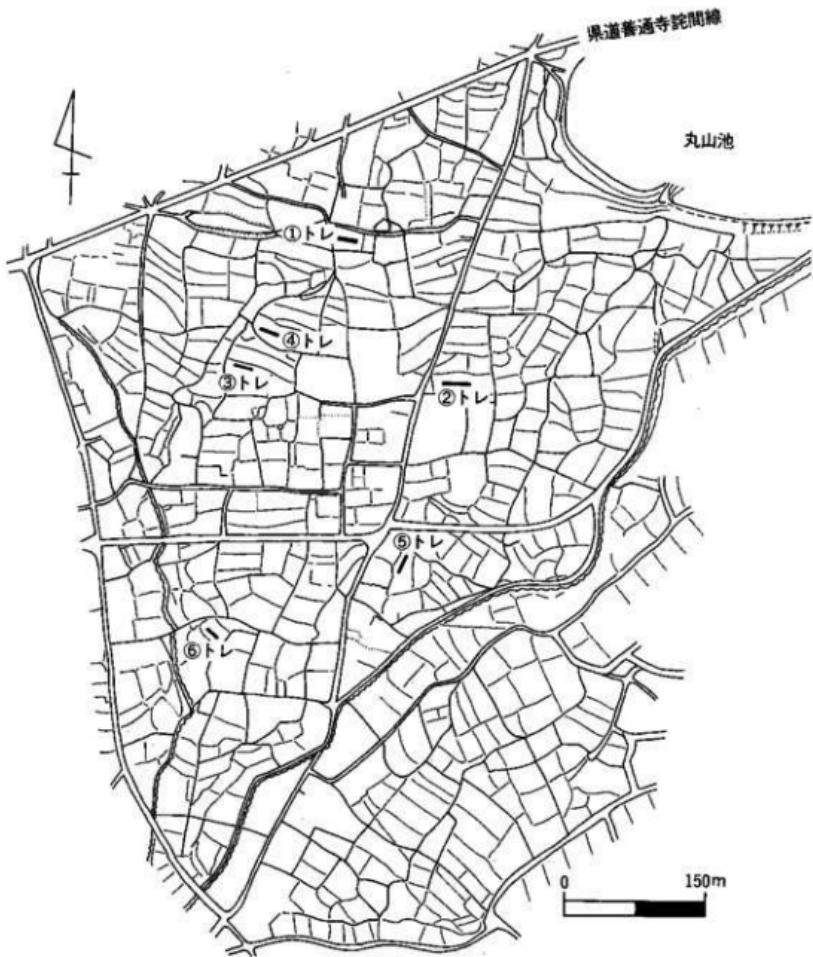


図15 トレーンチ配置図

写真20 重機稼働状況



写真21 ③トレンチ全景
(東より)

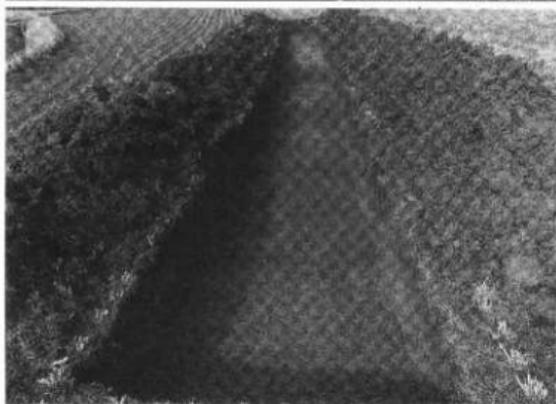


写真22 ④トレンチ全景
(西より)



3 香南地区

立地と環境

高松平野の南西奥に位置する香南町の南部は、西方の綾上町、綾南町にかけて広がる千疋台地の東部を占めるが、この台地は開析が進み概ね北西方向に開く谷地形が発達し、丘陵上の台地と谷が折りなす地形は非常に起伏に富んでいる。

周辺の遺跡分布としては、台地の北東縁辺に位置する冠櫻神社の周辺は弥生時代の遺物散布地である冠櫻八幡遺跡として知られている。また、台地上には大坪古墳のような後期古墳が単独ないしは複数で散在する。さらに音谷池の築かれた谷は、綾歌郡国分寺町を経て高松市西郊の香西町で瀬戸内海に流れ込む本津川の最上流にあたるが、この谷に面した東西の丘陵状台地斜面には大坪窯跡・茶園窯跡をはじめ数基の古墳時代末期の須恵器窯跡が分布する。調査対象地が含まれる音谷池中にも、昭和58年度に瀬戸内海歴史民俗資料館が実施した分布調査により東側奥の斜面に須恵器の散布と窯体の散布がみられ、音谷池東岸窯跡として周知されている。また、同調査により音谷池西岸にも須恵器片の濃密な散布がみられることから窯跡の存在が示唆されている。

調査結果

調査対象地周辺では、平成5年度には場整備事業が予定されているが、音谷池西北支谷を埋め立てるため、音谷池を浚渫し水量を確保することがため池条例によって義務づけられている。そこで、音谷池西岸の遺物散布地において保護措置の必要な範囲を明確にすることを目的に試掘調査を実施した。

進入路が狭いこと、池岸の段差が大きいことなどから重機の搬入ができなかつたため、すべて人力により掘削した。トレントは遺物の散布している部分の池岸部分と渚部分に等高線に平行に設定した。その結果、池内に設定したトレント（①②③④トレント）においては、いずれも表土直下もしくは20cm厚の堆積層の下に花崗岩風化土があり、窯跡あるいは灰原等の痕跡は認められなかった。また、最も遺物の散布の濃密な部分の池岸斜面部に1本トレントを設定し、掘削したがやはり、窯跡等の痕跡は確認し得なかった。

④トレントでは、中世以降から現代に至るまでの土器等が濃密に散布しているが、この部分には数十年前まで家屋が建っていたとのことである。

調査の結果、設定したいずれのトレントからも、窯跡が所在を示す知見は得られなかつたが、遺物の散布状況を考慮すると、やはり当該地周辺に窯跡が所在していた可能性が高いと考えられる。遺物は概ね池岸より20mの範囲内の斜面部に散布しており、この部分の堆積土中にも若干包含されている。

したがって、この池岸より20mの範囲内の池内斜面部については、文化財保護法に基づく適切な保護措置が必要であると判断される。



- | | |
|---------------------|-------------|
| 1 天神岡1号墳 | 8 須恵器散布地 |
| 2 茶園窯跡（須恵器窯跡、古墳後期末） | 9 中世土器散布地 |
| 3 大坪麻跡 | 10 奥谷古墳 |
| 4 大坪古墳 | 11 城所山1・2号墳 |
| 5 須恵器散布地 | 12 冠櫻八幡遺跡 |
| 6 香谷池東岸窯跡 | 13 由佐城跡（中世） |
| 7 須恵器散布地 | |

図16 調査対象地と周辺の遺跡分布図

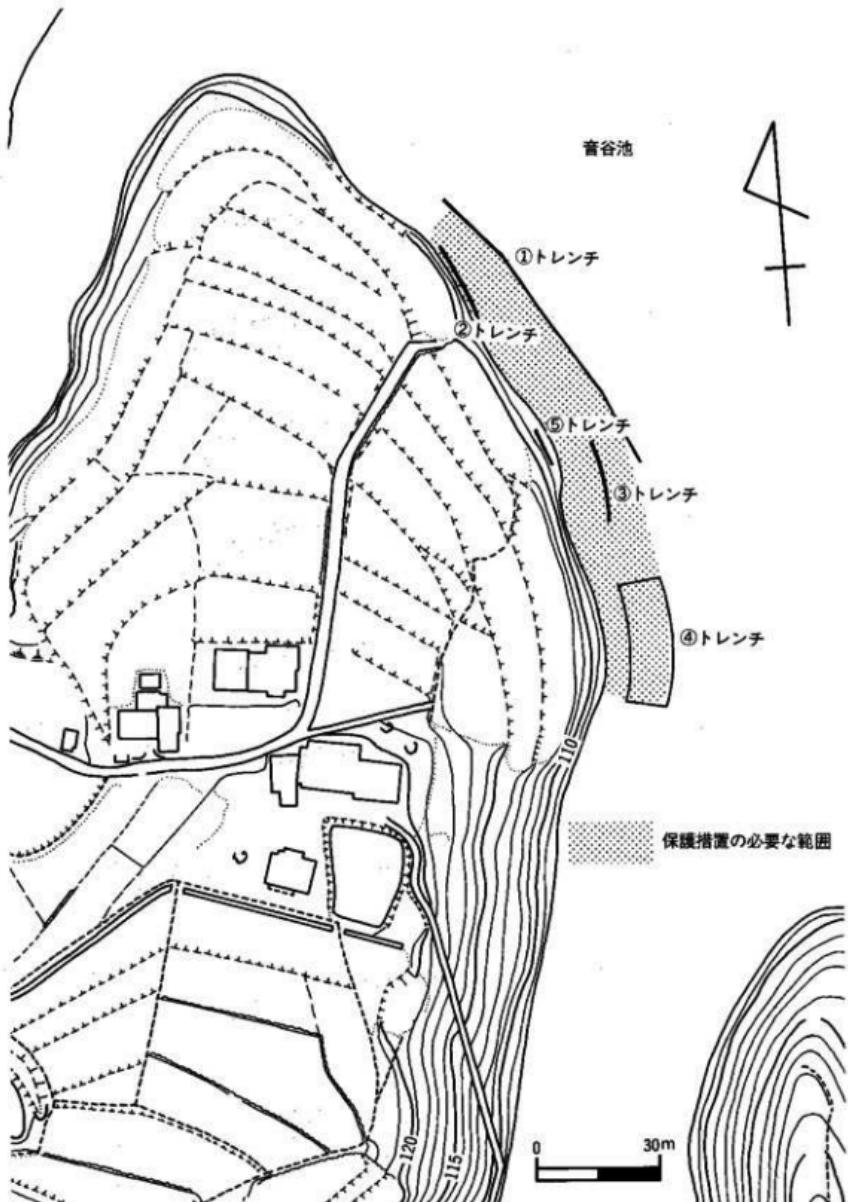


図17 トレンチ配置図・遺跡範囲図

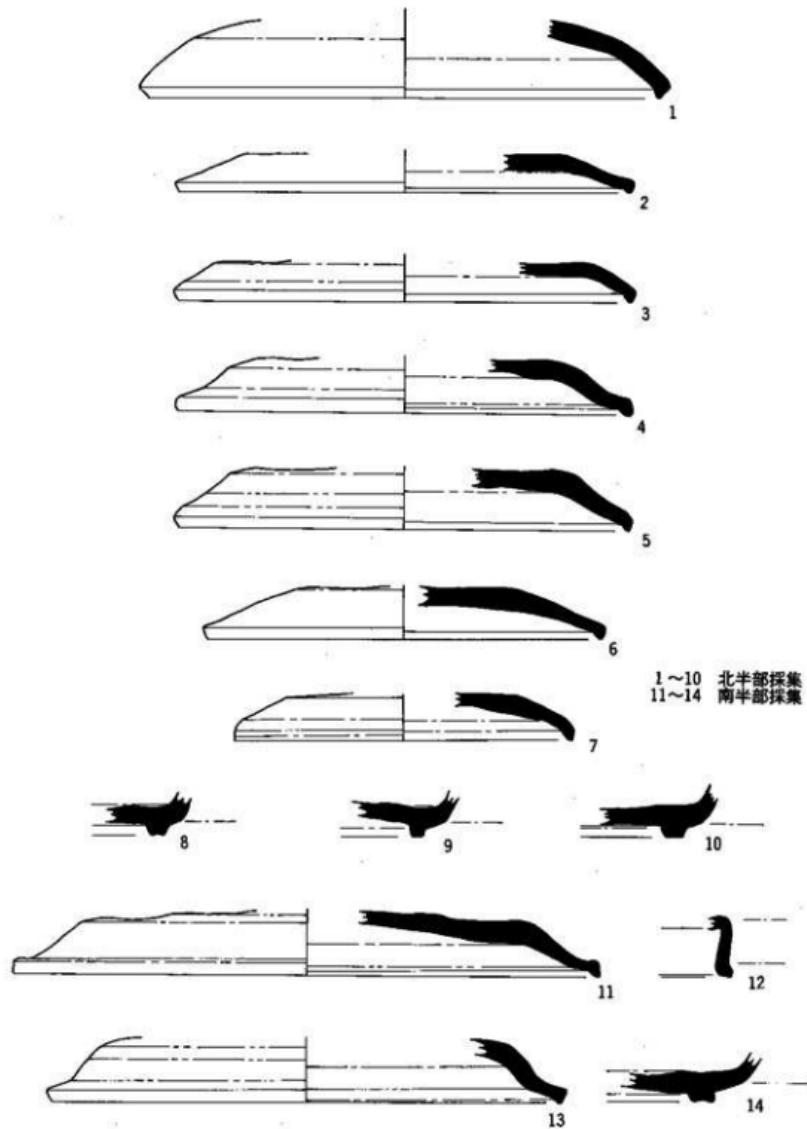


図18 遺物実測図 (縮尺 $\frac{1}{2}$)

写真23 調査地遠景（北より）



写真24 調査地近景（南より）

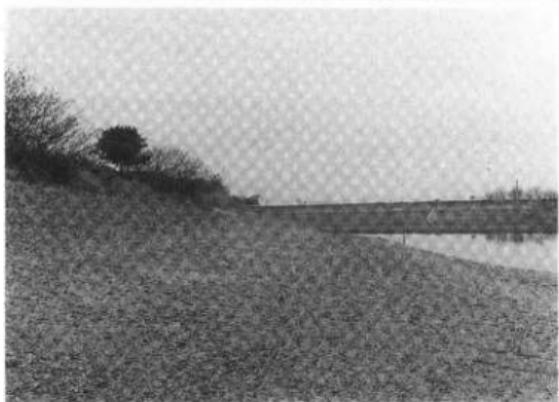


写真25 ①トレンチ発掘状況
(北より)



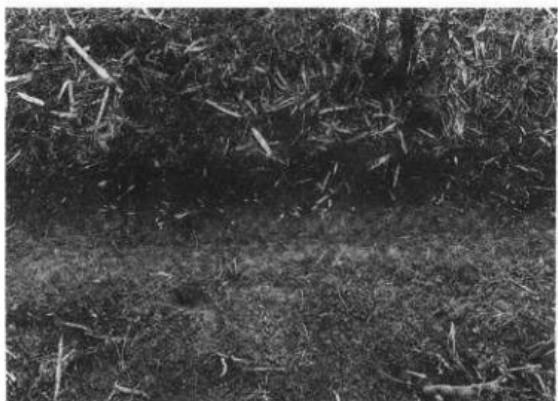


写真26 ②トレンチ土層堆積
状況



写真27 ③トレンチ発掘状況



写真28 ⑤トレンチ発掘状況
(南より)

4 大川地区

調査目的

今年度の試掘調査対象地は県道高松長尾大内線より北へ約400m、大川町役場より東へ約350mの範囲内で、事業面積は約7.1haである。対象地のうち西端に相当する約4分の1の範囲は昨年度末に試掘調査を行い、古墳時代後期から古代にかけての集落跡を検出している。

その試掘データをもとに設計変更を行うとすると、事業対象地内で約3万m³という膨大な盛土量が必要となる。また、周辺の水田に隣接する宅地についても、地盤高が水田面以下に没することになり、湿気等による悪影響が出てくる事態も予想された。

今年度当初になり大川土地改良事務所より、昨年度の対象地のうち試掘未実施地区とともに、事業予定地東半部の試掘調査を行ってさらに詳細なデータを示してほしい旨の要請があった。切土予定地全ての埋蔵文化財包蔵状況を確認し、可能な限り設計変更は避け、土量を減らすとともに、周辺宅地への悪影響を回避したいというものである。

そこで、今年度は20cm以上の切土が予定されているほ地全てを対象に試掘調査を行うことにした。調査に際しては重機の使用等、事業者側から協力を得た。

位置と環境

大川町は香川県東部の内陸部に位置し、北と東は独立山塊、南は阿讃山脈の前山の山塊と洪積台地に囲まれ、平野部は南北約1km、東西約2.5kmと狭長である。この平野部の北辺を津田川が、また中央を欄川が北流、西流する。この地域の遺跡分布をみると、平野部周囲の山塊・山麓部には香川県東部の古墳文化を代表する奥古墳群川東古墳、古枝古墳、富田茶臼山古墳等が分布し、また北方の大川・津田・寒川の三町にまたがる雨滝山山頂には、香川県下の中世山城を代表する雨滝城跡が所在する。一方、平野部には弥生～近世にわたる集落跡が数箇所分布するほか、奈良～平安時代の寺院跡である下り松庵寺が所在する。

今回の調査対象地は津田川と欄川に挟まれた沖積平野部で、西端に接して弥生から中世にかけての集落遺跡である千町遺跡がある。

調査の結果

事業予定地に23本のトレンチを設定した。以下トレンチごとの概要を記す。

番号	遺構	遺構面の深さ	遺物	概要
1	ピット2	耕作土下 32cm	なし	遺構面は締った暗黄褐色砂層。 この面は西に向かって次第に下る。
2	ピット4 溝1 土坑3	耕作土下 10cm	土師器 (溝内出土)	遺構面の土質は1トレと同様。 溝内出土土師器は7世紀代。



- 1 富田茶白山古墳（中期、前方後円墳）
 2 千町遺跡（散布地、古墳～中世）
 3 了智坊遺跡（包蔵地、弥生・近世）
 4 川東古墳（前期、積石前方後円墳）
 5 下り松庵寺（奈良～平安）
 6 柴谷古墳群（後期）
 7 時友弥生墳墓群（墳墓、弥生）
 8 富田神社古墳（後期、円墳）
 9 吉枝古墳（前期、前方後円墳）
 10 大井古墳群（中期、円墳 7基）
 11 寺田大角遺跡（集落跡、弥生）
 12 田辺遺跡（集落跡、古墳）
 13 穂広遺跡（集落跡、弥生～古墳）
 14 加藤遺跡（集落跡、弥生～古墳）
 15 石田高校校庭内遺跡（集落跡、弥生～古墳）
 16 宮町東谷古墳群
 17 雨城跡（中世山城）
 18 黒岩古墳（前期、箱式石棺）
 19 古枝遺跡（壹棺等）
 20 落合古墳
 21 大井遺跡（壹棺等）
 22 奥古墳群（円墳、前方後円墳約30基）
 23 石井院寺（白鳳、塔心礎）
 24 富町遺跡（集落跡、弥生～古墳）
 25 吉枝西遺跡（壹棺、箱式石棺）
 26 吉金古墳群（2基、径20m）
 27 平砂古墳群（2基、横穴式石室）
 28 一の瀬古墳（横穴式石室、空存）

図19 調査対象地と周辺の遺跡分布図

番号	遺構	遺構面の深さ	遺物	概要
3	ビット6 (径50~70cm)	耕作土下5cm	須恵器片 (やや摩滅)	南に向かって遺構面上昇。 南半部で遺構検出。 須恵器(第22図1)は7世紀前葉。
4	竪穴住居1	耕作土下11cm	須恵器片 (竪穴住居内)	竪穴住居は1辺5.8cmの方形で北辺中央にカマドが付設されている。 須恵器(第22図2)は7世紀前葉。
5	ビット1 溝1 土坑1	耕作土下20cm	須恵器片 土師器片 (包含層)	溝は幅50cm、深さ20cm。埋土は灰黒色砂。古代以前の遺構であろう。
6	ビット12 土坑2	耕作土下25cm	土師器片 (包含層)	土坑は焼土、炭化物を伴う。遺物量極めて少ない。
7	溝2	耕作土下15cm	な し	溝は幅1m(東西方向)、幅2m以上(南北方向)の2条、後者が前者を切る。
8	な し	不明	な し	掘削深度が遺構面に達せず。 下位に遺構が所在する可能性が高い。
9	溝1 土坑1	耕作土下40cm	須恵器 土師器 陶器(溝内)	溝は東西方向、幅1.5m、深さ40cm以上。 多量の遺物出土(第22図3~6)。15世紀を中心とする。
10	ビット8 溝2	耕作土下12cm	な し	溝はいずれも東西方向、幅0.7mおよび2.6mで、深さ10~15cmと浅い。 須恵器(第22図7、8)等出土。13世紀前葉。
11	ビット1	耕作土下直下	な し	南半部は耕作土直下粘土の地山面、かなり削平されている。 北端付近でビット検出。
12	ビット28 溝1 土坑2	耕作土下34cm	な し	溝は幅20cm。 ビット群も多いも建物復元ならず。
13	ビット8 溝1	耕作土下24cm	な し	溝は南北方向。幅1.3m、深さ30cm、径50cm前後の大型ビットあり。
14	ビット3 溝1	耕作土下5cm	土師器片 1点 (溝内)	遺構面は黄白色砂礫層上面。 溝は幅1.8mをはかる。
15	ビット10	耕作土下23cm	須恵器片 2点 (包含層)	ビットはいずれも直径30cm以下。
16	ビット6 土坑1	耕作土下30cm	な し	遺構面は黄白色砂礫層上面。 土坑は径1.3mの不整円形。
17	ビット4 溝1	耕作土下10cm	な し	溝は幅1m、南北方向。 ビットは径40cm前後。
18	な し	耕作土下	な し	土層序は他トレンチと同様。 基盤面(暗黄茶色砂礫層上面)も存在し、削平は受けていない。

番号	遺構	遺構面の深さ	遺物	概要
19	なし	耕作土下	なし	基盤面なし。 かなり削平を受けている。
20	ピット9	耕作土下 20cm	なし	遺構面は繋りのない黄白色砂砾層上面ピット群は比較的明瞭。
21	ピット1	耕作土下 5cm	なし	遺構面は耕作土下5cm。 面端の4mの範囲のみ遺構面残存。 東半部はかなり削平を受けている。
22	なし	耕作土下	なし	基盤面が認められず、削平を受けている可能性あり。
23	ピット3 溝2 土坑1	耕作土下 20cm	土器皿 (土坑内)	溝はいずれも南北方向。 幅1.3~1.5m 土坑は1辺80cmの方形で遺物多い。 (第22図9~11)



図20 トレンチ配置図

まとめ

(基本層序)

11トレンチを除き、厚い砂層堆積が認められるが、調査対象地西半部（1トレ～8トレ）と東半部（9トレ～23トレ）では遺構面の土質に相違がみられる。西半部は暗黄褐色砂層上面で比較的縮りはよい。東半部は黄白色砂礫層あるいは黄茶色砂礫層あるいは黄茶色砂砂礫層で縮りが悪い。また、削平地を除く調査区のほぼ全域で遺構面上に薄い暗灰褐色砂層の堆積が認められる。同層中に少量の遺物を包含したトレンチもあるが、全く出土しなかったトレンチが大多数を占める。

今回の調査区では東半部が最も高く微高地状を呈しているが、このような地形形成は当該地の遺構面形成期にあたる中世において完成したものと推定される。この部分は南方の尾根筋が伸びる位置でもあり旧地形を反映したものであるが、一様に厚い砂礫の堆積が認められたことからすれば、南東方向の谷筋（羽鹿池の所在する谷筋）が開く部分の扇状地化による地形変化を想定できる。

西半部については、同様の砂礫層堆積が認められず、検出遺構も古墳時代～古代のものを中心とする。従って、早い段階で地形的に安定し、居住域として機能していたものと推定される。

(遺跡の内容)

- ① 3トレで検出した掘立柱建物及び4トレで検出した堅穴住居は古墳時代後期末（7C初）、2トレで検出した溝は同様に7世紀代に位置づけられる。1～5トレで検出したその他の遺構についても遺構面を同じくし遺構埋土も同様であったことから、ほぼ同時期の所産と考えられる。また、昨年度末に行った試掘調査でも今回の2トレ周辺で同時期の遺構・遺物が検出されており、1～5トレの設定範囲内には古墳時代後期末～古代の集落遺跡が広がっているものと考えられる。
- ② 6～23トレでは遺構密度は濃炎はあるが、削平地を除けばほぼ全てのトレンチで遺構を検出している。これらのうち時期を明確にできるのは9トレの溝、23トレの土坑のみであるが、その他の遺構も同様に厚い砂礫上に営まれたものであり、ほぼ同時期の所産と考えてよい。従って、東半部の微高地上には中世段階の集落遺跡が広がっているものと考えられる。

(遺跡の保護について)

事業予定地内で第21図のとおり46,900m²について、埋蔵文化財包蔵地の所在が確認された。設計変更による盛土量は1万m³以下におさえられることになり、これらは全て設計変更により現状保存されることになった。

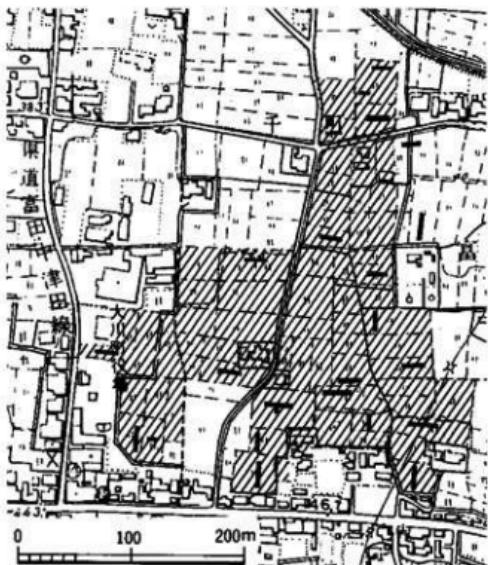


図21 保護措置が必要な範囲

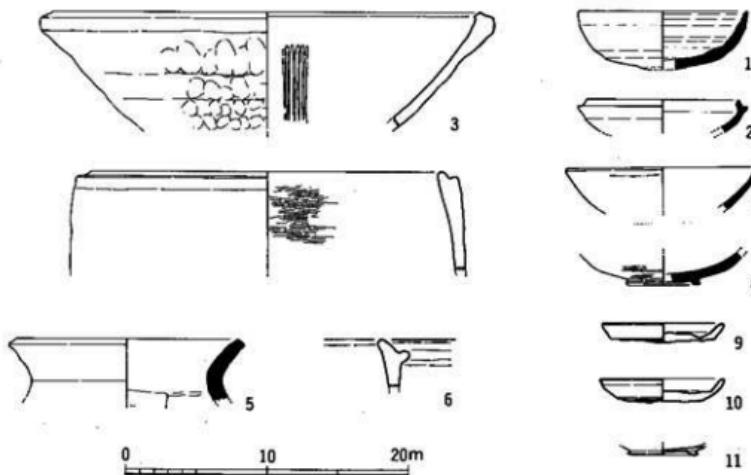


図22 遺物実測図

写真29 2トレ掘削状況



写真30 3トレピット群
検出状況



写真31 4トレ竪穴住居
検出状況





写真32 10トレピット群
検出状況



写真33 14トレ溝検出状況

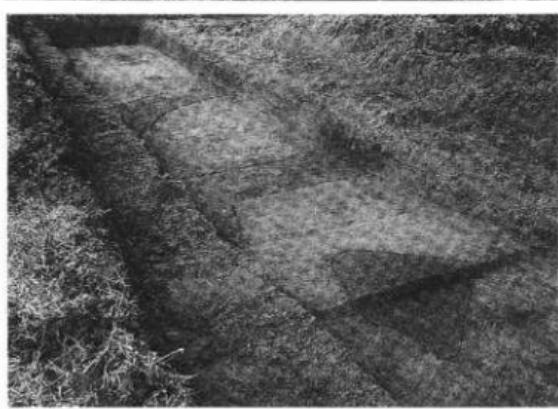


写真34 23トレ掘削状況

5 大内地区

立地と環境

調査対象地は与田川中流域左岸の低地部分（中村地区）及びその北方の丘陵縁辺の谷筋部分（北山地区）の2ヶ所に分かれ、総事業面積は約13haである。与田川左岸は明確な段丘を有していることから、氾濫原の判断も比較的容易である。中村地区は対象地の西半部約150mの範囲が段丘上、東半部は氾濫原に相当する。後者は全域盛土工法が採用されることもあり、試掘対象地からは除外した。北山地区は北半部の谷筋部分と南半部の尾根縁辺部に細分されるが、後者は周知の埋蔵文化財包蔵地である仲善寺遺跡に隣接するため試掘対象地に含めた。

周辺は比較的の遺跡が多く分布する地域である。尾根を一つ隔てて西隣の与田川左岸地域には旧石器から弥生時代にかけての散布地である大社遺跡、北方の丘陵部には弥生時代の北山遺跡、高原遺跡、与田川を挟んで南方丘陵部には弥生時代の風呂遺跡、笠塚遺跡、城ノ内遺跡等が所在する。また、楠谷古墳、岩瀬庵古墳、別所古墳等も知られている。

調査結果

北山地区に4ヶ所、中村地区に8ヶ所のトレンチを設定した。以下各トレンチごとの概要を記す。

番号	遺構	遺物	概要
1	なし	なし	50cm以上の花崗土客土
2	なし	なし	50cm以上の花崗土客土
3	なし	なし	
4	なし	なし	
5	なし	弥生土器 土師器	床土下15cmの遺物包含層
6	溝、ピット	土師器 弥生土器 須恵器	耕作土下10~12cmで遺物包含層 (厚さ8~20cm) 包含層下に遺構所在
7	ピット	土師器 須恵器	耕作土下10cmで遺物包含層(厚さ20~50cm) 包含層下に遺構所在
8	なし	土師器	耕作土下10cmで遺物包含層(厚さ30cm以上)
9	なし	土師器	耕作土下12cmで希薄な遺物包含層
10	なし	土師器	耕作土下16cmで希薄な遺物包含層
11	なし	弥生土器 土師器	耕作土下6cmで希薄な遺物包含層
12	なし	なし	



- | | |
|----------------------|-----------------------|
| 1 大社遺跡 (散布地、旧石器～弥生) | 12 金毘羅山遺跡 (散布地、弥生) |
| 2 西内遺跡 (散布地、文) | 13 立遺跡 (豊作、弥生) |
| 3 水主神社遺跡 (散布地、弥生～中世) | 14 城ノ内遺跡 (散布地、弥生～平安) |
| 4 石製埴輪 | 15 別所池田遺跡 (散布地、弥生～中世) |
| 5 楠谷古墳 | 16 別所古墳 |
| 6 長尾山遺跡 (散布地、古墳) | 17 別所遺跡 (散布地、弥生) |
| 7 岩涌底古墳 | 18 原簡古墳 (横穴墓室) |
| 8 風呂遺跡 (散布地、弥生) | 19 与田寺山古墳 |
| 9 仲善寺遺跡 (散布地、奈良) | 20 清古墳 |
| 10 北山遺跡 (散布地、弥生) | 21 西村古墳 |
| 11 高原遺跡 (豊作、弥生) | 22 落合遺跡 (散布地、弥生) |

図23 調査対象地と周辺遺跡分布図

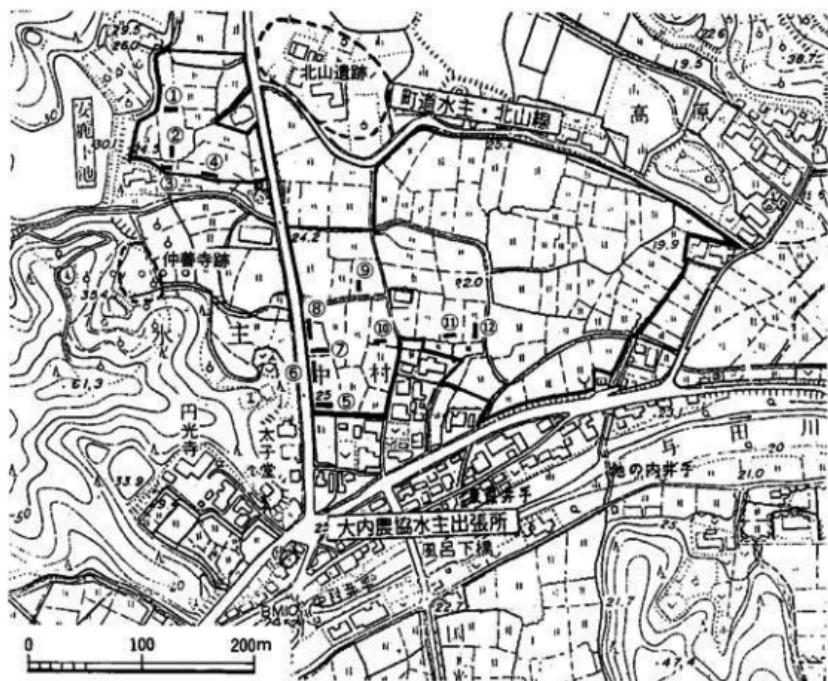


図24 トレンチ配置図

吉とめ

北山地区については遺構・遺物とともに検出されず、埋蔵文化財の保護措置は不要である。

中村地区は尾根筋上にあたる6・7トレンチで遺構（鎌倉時代）が所在し、遺構上には比較的濃密な遺物包含層が所在する。9～12トレンチは希薄な遺物包含層（砂層）が厚く堆積しているが、いずれも魔滅を受けているため、上流からの流れ込みによるものと考えられる。

以上のことから別添図に示した範囲(2,250m²)については埋蔵文化財の保護措置が必要と判断されたが、全域設計変更により現状保存されることになった。なお、この部分は県道中村落合線拡幅工事に伴い今年度香川県教育委員会が発掘調査を行い、弥生時代中期末～後期初頭、古墳時代前期、中世の各種遺構・遺物を検出している。



図25 保護措置が必要な範囲
(仲善寺遺跡)



写真35 6 トレビット検出状況



写真36 6 トレビット掘削状況

埋蔵文化財試掘調査報告 VI

国道バイパス・県道建設予定地及び
県営ほ場整備事業予定地内の調査

平成 5年 3月31日

編集・発行 香川県教育委員会
高松市番町4-1-10
電話 0878-31-1111